

2日間にわたるスクールフェスティバルも無事に終わり、楽しい時間もあっという間だったと感じているかもしれませんね。
今回はPTAショップの洋書から、54冊もの本をメディアセンターにご寄贈いただきました！
すべて受け入れ手続きも終えましたので多言語コーナーに並んでいます。



■ 今月の新着図書から ■



『学会ポスターのデザイン術』 分類 407
宮野公樹 / 化学同人

「うまく伝えられるポスターの参考になる本はありませんか？」というリクエストに答えて入手した本がこちら。考えを整理し、内容を分類し、流れをつくりながら相手に伝わるようにポスターにまとめる、という手法が多く、図解とともにわかりやすく紹介されていますよ。



『動物たちのナビゲーションの謎を解く』 分類 481
デイビッド・バリー / インターシフト

司書の私はひどい方向音痴です。以前の勤務校では、校内で図書館の場所がわからなくなったほど。しかし生き物の中には前年と同じ繁殖地に戻ってくる鳥や魚がいます。なぜ戻れるルートがわかるのか？視覚？匂い？磁器センサー？そんな動物たちの謎に迫る一冊です。



『西洋の名建築がわかる七つの鑑賞術』
中島智章 / エクスナレッジ

海外にでかけたとき、日本とは異なる建築物を観るのはとても楽しいものです。この本では西洋にしばり、鑑賞するときのポイントを詳しく紹介。あらためて重機もなく、PCで設計もできない時代の人間の叡智(えいち)に驚嘆と尊敬の念をおぼえます。



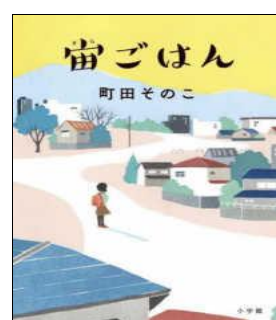
『思い出のとしまえん』 分類 639
練馬区立石神井公園ふるさと文化館 / 文学通信

本校も練馬区にあります。練馬といえば遊園地「としまえん」で知られていました。しかし2020年に94年の歴史に幕を閉じることに。皆さんになかには家族と一緒にでかけた思い出がある人もいますでしょう。そんなとしまえんの94年間の多くの写真と共に振り返ります。



『明日のフリル』 分類 913
松澤くれは / 光文社

上野の森にある、夜だけあく謎の洋服屋。そこでは天才的ファッションデザイナーの梓(あずさ)がこだわりの一点モノを販売していました。安くて大量生産される服を販売することに疑問を感じていた呉服屋のあやめは、梓の店で一点モノの服の素晴らしさにふれるうちに…



『宙ごはん』 分類 933
町田そのこ / 小学館

宙(そら)には生みの親である「お母さん」と育ての親である「ママ」の二人がいる。複雑な家庭環境で育った宙だが、成長とともに、一人の人間でもさまざまな顔を持っていることを知る。とにかく最後まで読むと忘れられない一冊となること間違いなし。

学校 HP に総合メディアセンターのページができました！

ついに9月から学校 HP にメディアセンターのページが開設されました！

学校HP⇒スクールライフ

⇒総合メディアセンター

<自宅やスマホからできること>

1. 館内の蔵書検索や予約
2. 電子図書館の本の貸出

ログイン ID: 自分の ID 番号
パスワード: isslibrary

これまで蔵書予約には ID やパスワードが必要でしたが、今回からは不要となり、直接ログインできるようになりました。電子図書館はまだ開設されたばかりなので読める本が少ないですが、今後増えていく予定です。また図書通信「Global Library」のバックナンバーも見ることができますよ。ぜひ一度 HP からサイトをご覧ください！

TGUIS 総合メディアセンター

Tokyo Gakugei University International Secondary School Media Center

館内蔵書検索&予約

電子図書館 OverDrive

館内のお知らせ



関連サイト

校内のみ

[朝日けんさくくん](#)

[朝日新聞クロスサーチ](#)

[理科年表](#)

[化学書資料館](#)

外部サイト

国立国会図書館サーチ

CINJ 日本国立情報センター

●今月の主な館内展示

「SSH の理科本が到着！」

2学期がはじまり、カウンター前にはたくさんのSSHの理系図書が並んでいます。化学、生物、気象、動物学・・・など興味がかけられる本があると思いますので、ぜひお休み時間に足を運んでください。

- 『花と昆虫のしたたかで素敵な関係』石井博 ベレ出版
- 『光生きものはなぜ光?』大場裕一 文一総合出版
- 『科学で読み解くクラシック音楽』横山真男 技術評論社
- 『あなたはこうしてウソをつく』阿部修士 岩波書店
- 『図解でわかるカーボンニュートラル』CN2 燃料普及を考える会
- 『新訂竜巻』小林文明 成山堂書店

この他多数展示中！



本棚 今年のスクールフェスティバルには、図書委員会も三年ぶりに参加しました。図書委員会が参加するようになったのは、実に一回生の頃からです。
Hon to Motto (本ともっと) という名称も、一回生や二回生の生徒が話し合っ
て決めました。司書の私もスクールフェスティバルの準備に立ち会ったことに、卒業していった図書委員さんたちの顔が浮かび、当時のようすが蘇ります。新しいことへのチャレンジは先輩たちがはじめたことの継承とで、時をこえても卒業生とつながっているような感覚が深いです(渡邊)